

日本海ケーブルネットワーク株式会社（NCN）

2015年春季放送番組審議会議事録

■日 時：2015年3月23日（月）午後1時半～3時

■場 所：日本海新聞本社ビル6階会議室（鳥取市富安2丁目137番地）

■出席者

審議委員：河村壮一郎（会長、鳥取短期大学教授）、福田京子（副会長、地域づくりネットワーク代表）、福島勝平（鳥取市情報政策室長）、藤井拓也（倉吉市総合政策課広報係長＝代理出席）岩本浩嗣（三朝町企画観光課主事＝代理出席）亀井雅信（岩美町企画財政課主事＝代理出席）藤井 博美（三朝町三朝区長）高橋 義道（岩美町ケーブルテレビ協力員）小山雅弘（鳥取銀行本店営業部副部長）

※役職は当時、敬称略、順不同

NCN：富長一郎（常務取締役）、川口耕（編成制作部制作課長）吉田幹也（編成制作部広告課長）中嶋信行（倉吉センター係長）

■報告事項

①2014年度の取り組みについて

NCN地域情報チャンネル、岩美町チャンネル、中部チャンネルのそれぞれについて2014年4月1日から2015年1月31日までの取り組みを報告した。

②NCN減災・ライブチャンネルの本放送について

地上112チャンネルで試験放送している「NCN減災・ライブチャンネル」を2015年4月1日に本放送に切り替える旨を報告した。

③CS提供番組における光点減事案について

2014年12月に番組供給会社スペースシャワーネットワークから供給された番組放送中に他地域で光点減による健康被害が起きたことを報告。NCNにおいても同時再放送したことからその経過と対応策について説明し、日頃の考査を呼び掛けた。

④放送事故について

2014年度にエリア内で発生した放送事故とその後の対応策について報告。

⑤デジアナ変換サービス終了について

デジアナ変換サービスを2015年3月10日正午に終了したことと、併せて終了

後の問い合わせ件数について報告した。

■協議事項

①自主放送番組について

NCNのニュース番組「ピットステーション」のほか、年度中に始まった医療番組「教えて！ホームドクター」やアーカイブを活用した新番組、年始に放送した特別番組などNCN地域情報チャンネルで放送した番組と岩美町チャンネルで放送した番組をVTRで紹介し、意見を募った。

委員からの意見と事務局の回答は次の通り。

(委員) 地元のケーブルテレビらしく地元の情報をしっかりと伝えていた。鳥取しゃんしゃん祭りの世界記録の瞬間を伝えた生中継は見ごたえがあった。引き続きこの地元密着の姿勢を続けていただきたい。

(委員) 地域情報チャンネルの自主放送は全エリアが対象だが、どのように放送内容や収録するイベントを選択しているのか。県中部の立場から見ると東部の比重が大きいように感じる。県中部でも地元を取り上げた番組をもっと制作してほしい。

(事務局) ニュースを中心に取り上げる機会をつくっていききたい。行政とも情報提供などの面で協力しながら番組内容の充実に努めたい。中部チャンネルでは去年からイベント収録の数を増やしている。多くの人に見ていただけるよう引き続き努力したい。

スタッフ数は県東部の方が多いが、積極的に人員を派遣するよう心掛けている。ご意見を踏まえてさらに取り組みを進め、地域の出来事を取り上げる機会を増やしたい。

(委員) 広報活動でどの自治体も動画に力を入れていきたいと思っている。今後も発信に協力していただきたい。

(委員) 地域の情報をいろいろな角度からを取り上げてもらって感謝している。さらに地域の情報にスポットを当てた取り組みを増やしてほしい。ところで視聴している人の意見をどのように回収しているのか。

(事務局) まずはこの番組審議会が番組内容について外部から意見を頂く場になっている。次に加入者から寄せられる電話内容をカスタマーボイスとして集約し番組

や周知に反映している。さらには昨年からの視聴率調査を導入し、加入者の視聴動向を確認し、番組の編成などに役立てている。

(委員) カスタマーボイス、視聴率などで上がった情報や数字は今後、この場でもらうと議論の参考になる。

(事務局) ご意見を踏まえて公開可能な範囲について協議し、情報を提示させていただきたい。

(委員) 三朝町では集落に住む人の数がどんどん減っている。このまま人口が減り続ければ15年20年経てば無くなる集落もあるのではと危惧している。今のうちに個別の集落をとりあげるような番組にぜひ取り組んでもらいたい。

職業を紹介する番組「ユメイロ」は人物にスポットを当てた良い内容、同じように集落を密着取材した番組ができないだろうか。

(事務局) 鳥取放送センターでは3月から地域の公民館を単位とした地域担当の取り組みを進めている。中には地域の宝とも言えるような伝統や話題もある。すぐに期待に添えるか分からないが、この取り組みをまずは掘り起こしやつながりの強化に役立てたい。

(委員) 医療の番組を拝見した。こうした役立つ番組はぜひ今後も続けていただきたい。部活がんばりやこちらCIEといった子どもたちを取り上げる試みは評価できる。一方で、エリアには大学や農業大学校なども存在している。こうした若い世代を取り上げる機会をぜひ増やしてもらいたい。

(事務局) これまで接点は少なかったが、大学や専門学校と連携した番組づくりは他のケーブルテレビ局も盛んに行っている。他の地域も参考にしながら取り組める方法を考えていきたい。

(委員) 減災・ライブチャンネルは国交省や県から提供されている情報を基にしていると思われるが、地名などで分かりにくい表記が散見される。地元以外の人が見ても分かるよう、もう少し具体的な表記ができないか。

(事務局) 減災・ライブチャンネルの表示については本放送にあたって、道路であればルートごと、河川であれば水系ごとに順番を整理した。地名などの表記についてはさっそく検討したい。本放送に当たり、表記や紹介する地点を絞り込ん

だが、引き続き委員の皆さんからもご意見をいただき改善していきたい。また、設置費用の問題もあるが、ライブカメラの追加設置も検討していく。

(委員) 全体として非常によく番組を作り込んでいる印象。敢えて言えば視聴者は臨場感のある生放送により引き付けられると思うので、中継を充実してみてもどうか。また、人口減少や子育ての問題は地域に住む人たちにとっては特に切実となっている。日々の密着型のニュースに加え、放送局として地域に貢献できるような番組づくりをぜひ目指してほしい。

(事務局) 生中継への期待度が高いことはよく分かった。現状の生中継番組は多くの人手を要しており、よりコンパクトな中継方法などを模索していきたい。また、日々のニュース取材の延長が地域課題を探ることや深掘りすることにつながると考えている。より追及していきたい。